

「カンムリシロムク翔び交う里」を目指すインドネシア・バリ島西部の地元住民・行政・企業の協働による、自然と経済の共生した地域づくり

活動地域  インドネシア・バリ島

ひろげる助成

3年目

実践

野生下の
カンムリシロムク

253羽

住民による植樹計画

5,700本

今年度計画の達成度

80%

目標達成度

85%



徳之島でエコツーリズムについて学ぶ村人達

課題

インドネシア・西部バリ国立公園周辺地域では森林破壊や密猟を減らすため、「カンムリシロムクの翔び交う里」を魅力の中心としたエコツーリズムの振興が課題となっている。

目標

西部バリ国立公園の周辺村でカンムリシロムクの生息地が保全され、住民グループと行政や企業との協働によるエコツーリズムの振興を通じて住民の生計が向上する。

活動内容と成果

国立公園職員による村人への寄り添い活動を支援。その結果、周辺6か村全村でカンムリシロムク飼育下繁殖が開始され、総数164羽に達した。野生下の個体数も前年同時期より50羽以上多い253羽となった。全部で15の住民グループがカンムリシロムクの生息地保全に取り組み、植樹やパトロール活動を行っている。ギリマヌクとプリンピンサリ両村では村全体を巻き込んだ委員会がエコツーリズム振興を統括し、スンプルクランボック村では五つ、プジャラカン村では三つのグループが活発にエコツアー受入れと植樹や清掃活動を行っている。



パニウワングで農業ツーリズムについて学ぶ

苦労した点と工夫した点

■ 苦労した点

各村の住民グループが、単なる観光客誘致ではなく、地域の豊かな自然や文化を活用し、訪れる人たちと交流が生まれる観光プログラムを考えてもらうこと。

■ 工夫した点

各村の住民グループが国立公園職員とともに、バリ島内や隣の東ジャワ州でエコツーリズム振興に取り組む住民組織等を訪問し、地域の自然や文化をいかした取組みを学んだ。



国立公園による環境教育の一環としての植樹

全助成期間の活動を振り返って

この3年間で私たちが確信したのは村人の底力である。地域の自然や文化を大切にしながら、生計を向上させるために、新しいことに挑戦する。そんな村人の底力を表に出したのは、国立公園現場職員によるファシリテーションだ。職員向けの研修では「村人の力を信じ、何も持ち込まず、信頼関係を作り、ともかく話を聴く」ことが強調された。現場職員の実践を通じて「コミュニティ・ファシリテーション」の力も再確認した。

〒231-0003
神奈川県横浜市中区北仲通3-33 関内フューチャーセンター
E-mail: welcome@i-net.org
HP: http://i-net.org/



今後の
展望

あいあいネットは今後現地での活動を、当会現地スタッフや専門家として活動してきた仲間が、国立公園を定年退職したファシリテーターたちと結成した現地団体に委ねていく。これまでの活動で明らかになった課題、カンムリシロムクの生息地保全と野生復帰に向けた村の若者たちの意識変革と行動変容、そしてこれら若者たちが中心となった「地域の自然と文化を大切に持続的なエコツーリズム」の振興を側面支援していく予定である。